



# あたらしい本

第264号 2025. 12. 15 発行（こども版）



## たくさんよんでくださいね！

「ゆきのひのさんぽ」 とりごえ まり/<sup>さく</sup>作 アリス<sup>かん</sup>館 （えほん 幼児向き）

この冬<sup>ふゆ</sup>初めての雪<sup>ゆき</sup>が降り、そらくんとねこのチャイは森<sup>もり</sup>へ散歩<sup>さんぽ</sup>へ出<sup>で</sup>かけました。木の<sup>き</sup>実<sup>み</sup>や葉<sup>は</sup>っぱ、枝<sup>えだ</sup>でいろん<sup>ゆき</sup>な雪<sup>ゆき</sup>だるまをつくりませんが、次<sup>つぎ</sup>の日<sup>ひ</sup>、ゆきだるまの目<sup>め</sup>や鼻<sup>はな</sup>にした木<sup>き</sup>の実<sup>み</sup>がなくなっていて・・・。

「つまようじの王<sup>おう</sup>さま」 かねこ まき/<sup>え</sup>絵 二宮<sup>にのみや</sup> 由紀子<sup>ゆきこ</sup>/<sup>ぶん</sup>文

ぶんけんしゅっぱん 文研出版（えほんのもり）（えほん 幼児向き）

つまようじたちに「王<sup>おう</sup>さま」だと勘<sup>かん</sup>違<sup>ちが</sup>いされたマツチ棒<sup>ぼう</sup>。王<sup>おう</sup>さまらしい態<sup>たい</sup>度<sup>ど</sup>を取<sup>と</sup>った  
り、かっこいいこと<sup>い</sup>を言<sup>い</sup>ったりしますが、ほんとうは、燃<sup>も</sup>えて灰<sup>はい</sup>になるのが怖<sup>こわ</sup>くて、マッ  
チ箱<sup>ばこ</sup>がひっくり返<sup>かえ</sup>った隙<sup>すき</sup>に逃<sup>に</sup>げてきていて・・・。

「アナトールとおもちゃ屋<sup>や</sup>さん」 ポール・ガルドン/<sup>え</sup>絵

イズ・タイタス/<sup>さく</sup>イフ・タイタス 好学社<sup>こうがくしゃ</sup> （えほん 小初向き）

人<sup>にん</sup>間のチー<sup>ち</sup>ズ工<sup>こう</sup>場<sup>じょう</sup>で味<sup>あじ</sup>見<sup>み</sup>係<sup>がかり</sup>として働<sup>はたら</sup>いているねずみのアナトール。ある日<sup>ひ</sup>、家<sup>か</sup>族<sup>ぞく</sup>が  
悪<sup>わる</sup>いおもちゃ屋<sup>や</sup>さん<sup>つか</sup>に捕<sup>み</sup>ま<sup>せ</sup>って見<sup>み</sup>世<sup>せ</sup>物<sup>もの</sup>にされてしまいました。アナトールは、家<sup>か</sup>族<sup>ぞく</sup>を助<sup>たす</sup>け  
るため計<sup>けい</sup>画<sup>かく</sup>を立<sup>た</sup>てますが・・・。

「絵<sup>え</sup>本<sup>ほん</sup>ってどうやってつくるの？」 ダニエル・ナッフ/<sup>さく</sup>作 若<sup>わか</sup>松<sup>まつ</sup> 宣<sup>のり</sup>子<sup>こ</sup>/<sup>やく</sup>訳

ほるぶ<sup>しゅっぱん</sup>出版 （えほん 小初向き）

やあ、ぼくはネズミのコンラート。絵<sup>え</sup>本<sup>ほん</sup>のつくりかたを教<sup>おし</sup>えてあげ<sup>はな</sup>る！お話<sup>はなし</sup>のアイデ<sup>う</sup>ア  
が生<sup>う</sup>まれてから、企<sup>き</sup>画<sup>かく</sup>をとおして、契<sup>けい</sup>約<sup>やく</sup>書<sup>しょ</sup>をかわして、原<sup>げん</sup>画<sup>が</sup>をかいて、印<sup>いん</sup>刷<sup>さつ</sup>して、そして  
本<sup>ほん</sup>屋<sup>や</sup>で売<sup>う</sup>られるま<sup>え</sup>でを描<sup>えが</sup>く。

まほう  
「魔法のつららペン つららペンと氷の国」 山崎 ナオコーラ/作  
アサバ マリエ/絵 静山社 (よみもの 小中向き)

文字を書くことが苦手で悩んでいた小学4年生のゆきのは、ある日、橋の上でつららをひろった。右手にぴったりとペンのようにはまり、字を書いてみると、教科書のようなきれいな文字がすらすらと書けて・・・。

「ねぎのねぎしくん」 戸森 しるこ/作 伊野 孝行/絵  
講談社 (よみもの 小中・小上向き)

ねぎはねぎとして生きてゆかねばならない。食べられるときがきたら、おとなしく食べられる。それがねぎのおきて。そして、ねぎの幸せ・・・。しゃべるねぎ「ねぎしくん」との会話から「幸せのありかた」が伝わるユーモア童話。

「ミャルル・ペローに出会った夜」 野中 柊/作 PEIACO/絵 理論社  
(よみもの 小上向き)

遠くから旅をしてきた、ねこのニッキ。ある夜、はじめて訪れた街で銀色の美しいねこに出会いました。その名も、ミャルル・ペロー！ニッキがミャルル・ペローに案内されたところは・・・。

「あの日、ともに見上げた空」 黒田 季菜子/作 トミイ マサコ/絵

Gakken (ティーンズ文学館) (よみもの 小上向き)

小学5年生の私には、ひとつ上の兄がいる。兄は突然叫んだり、駆けだしたり、私とは全然違う人間だ。そんな兄がインフルエンザで修学旅行に行けなくなったことから、周囲をまきこんだ「やりなおし修学旅行」が始まり・・・。〔小川未明文学賞大賞(第33回)〕

さかとしりつちゅうおうとしょかん  
坂戸市立中央図書館 TEL281-6369

※図書館流通センター「新刊全点案内」より引用